

令和 6 年度

若者アンケート実施結果

報 告 書

<概要版>

令和 7 年 3 月

鹿角市総務部政策企画課総合戦略室

1 実施目的

次代を担う若者の将来に対する意識や市政に対する考え方などを把握し、その結果や意見を第7次総合計画後期基本計画（令和8年度～12年度）に反映することを目的とします。

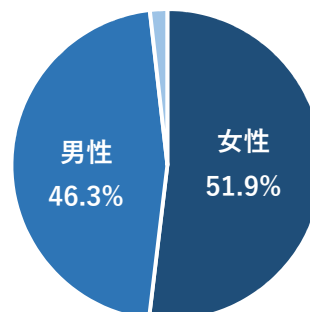
2 調査概要

調査概要は以下のとおり

実施期間	令和6年10月30日（水）～12月1日（日）
実施対象	住民基本台帳に登録されている方のうち、無作為によって抽出した高校生から39歳までの市民900人。抽出にあたっては性別、年齢、地域条件を考慮し均衡を図った。
実施方法	自治会を通じて配布、郵便及びインターネットによる回収
回収率	44.1%（397/900人）

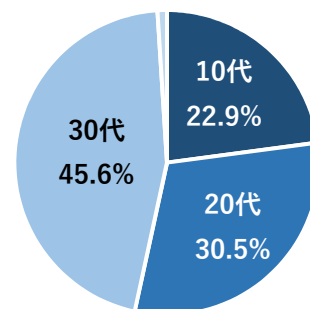
(1) 男女別

区分	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
女 性	399	44.3%	206	51.9%	51.6%
男 性	501	55.7%	184	46.3%	36.7%
無回答	-	-	7	1.8%	-
計	900	100%	397	100%	44.1%



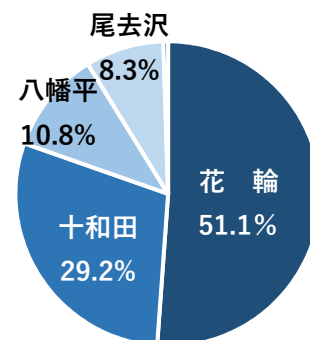
(2) 年代別

区分	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
10代	193	21.4%	91	22.9%	47.2%
20代	310	34.4%	121	30.5%	39.0%
30代	397	44.1%	181	45.6%	45.6%
無回答	-	-	4	1.0%	-
計	900	100%	397	100%	44.1%



(3) 地区別

区分	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
花 輪	460	51.1%	203	51.2%	44.1%
十和田	284	31.6%	116	29.2%	40.9%
八幡平	94	10.4%	43	10.8%	45.7%
尾去沢	62	6.9%	33	8.3%	53.2%
無回答	-	-	2	0.5%	-
計	900	100%	397	100%	44.1%

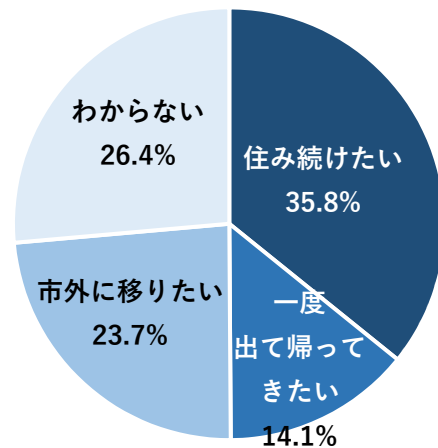


1. 定住意識について

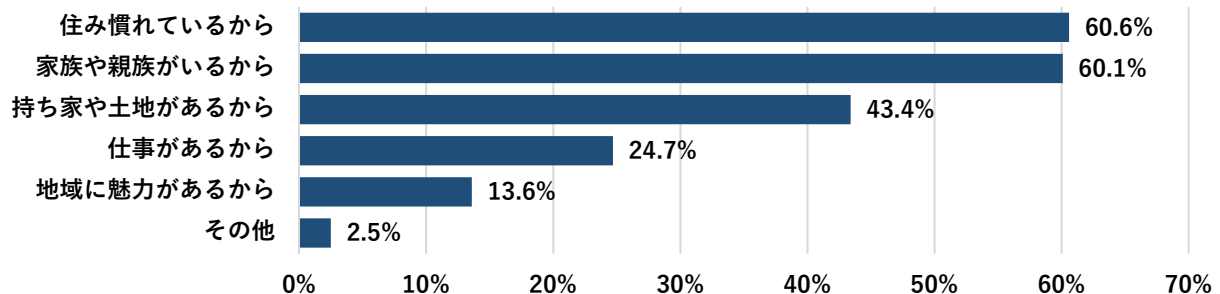
鹿角市に住み続けたい

49.9%

- 「住み続けたい」が 35.8%、「一度出て帰ってきたい」が 14.1%で、定住意向率は約半数である。
- 定住意向率は、年代別では 20 代が最も低くなっている。また、職業別では正社員が最も高かった。



その理由

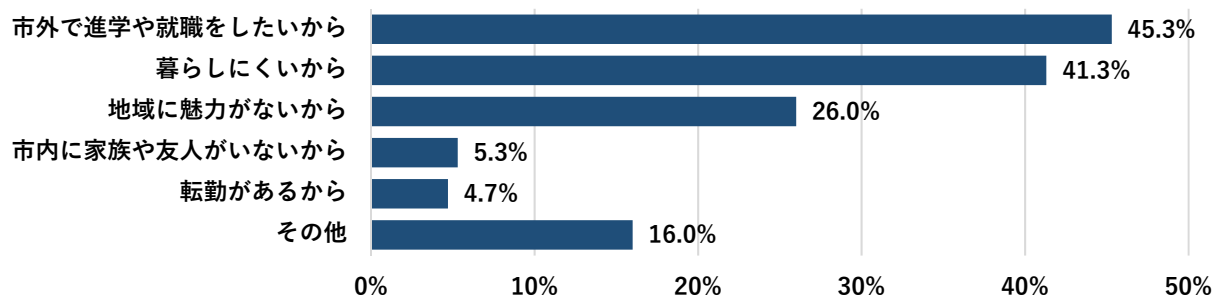


市外に移りたい

23.7%

- 年代別では、10 代が 31.9%、20 代が 27.3%、30 代が 17.6%と若い年代ほど転出意向が高い。
- 職業別では、高校生・学生が 32.7%と最も高く、次いで非正規雇用の 27.0%が続いている。

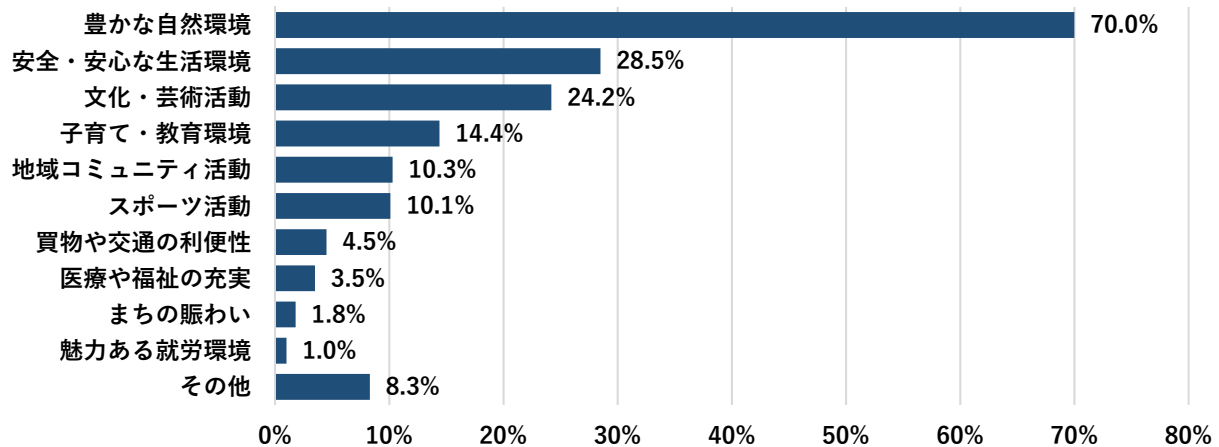
その理由



2. 鹿角市の魅力と課題について

鹿角市の魅力について

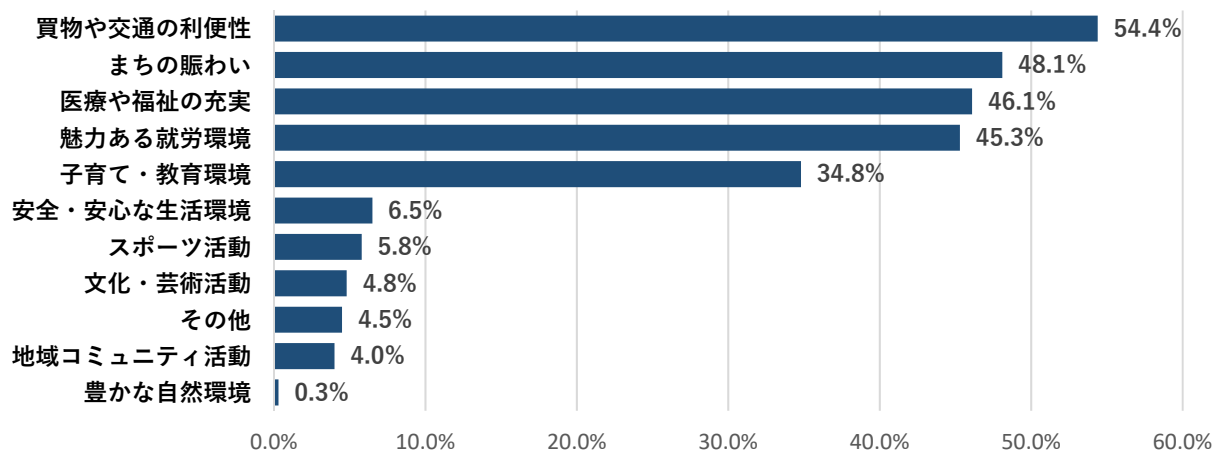
7 割が豊かな自然環境を選択



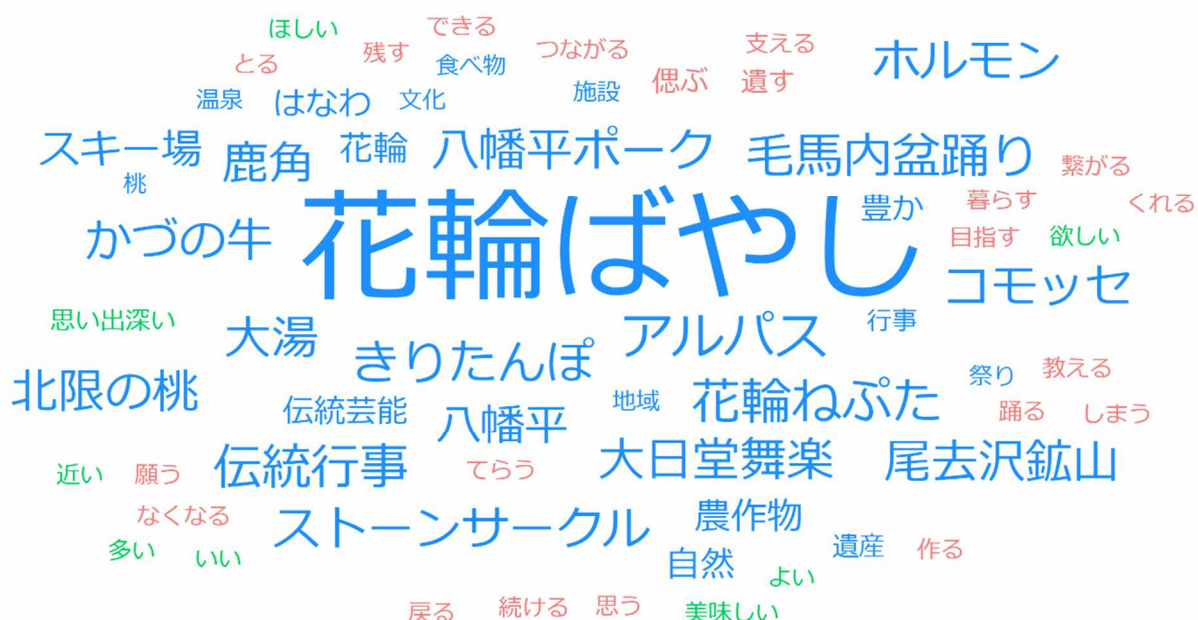
- 鹿角市の誇り・魅力として、「豊かな自然環境」が 70.0%と最も高く、次いで「安全・安心な生活環境」が 28.5%、「文化・芸術活動」が 24.2%である。

鹿角市に不足しているもの

買い物環境、まちの賑わいが上位に



- 鹿角市に不足しているものとして、「買い物や交通の利便性」が 54.4%と最も高く、次いで「まちの賑わい」が 48.1%、「医療や福祉の充実」が 46.1%である。
- 買い物をする場所、公共交通、医療・福祉サービス、まちの賑わいが鹿角市に不足しているものとして挙げられる。



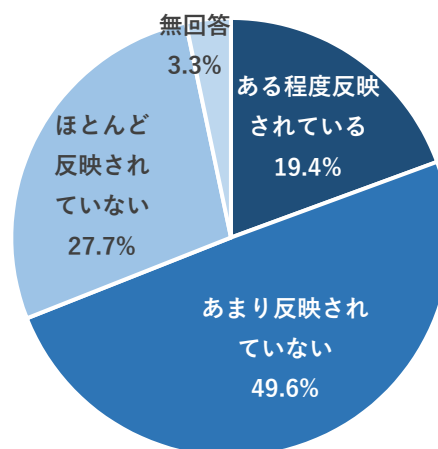
- 鹿角市にあるもので将来に残したいものについて、279 人から 566 の記述があった。最も回答数が多かったのは、「花輪ばやし」で 130 票と圧倒的に多く、次いで「豊かな自然」が 33 票、「きりたんぽ」が 32 票であった。
- 自由記述をキーワード化して分析したところ、「世界的な文化遺産」に関するものが 41.1% と最も高く、次いで「食べ物」に関することが 38.8%、「自然」19.6%となっている。
- 無回答者が全体の 32.5%おり、関心を持っていない状況がうかがわれる。市の魅力や価値が十分に伝わっていない可能性がある。

3. 若者の活躍促進について

意見が反映されていると思う

19.4%

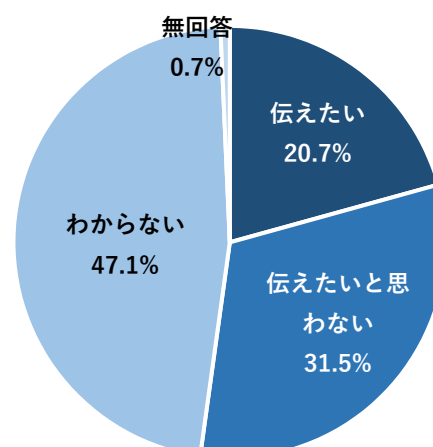
- 「かなり反映されている」が 0%、「ある程度反映されている」が 19.4%で、肯定率は2割程度であった。
- 「10 代」では肯定率が他の年齢と比較して高かったが、「20 代」では否定率が高く 85.1%となっている。



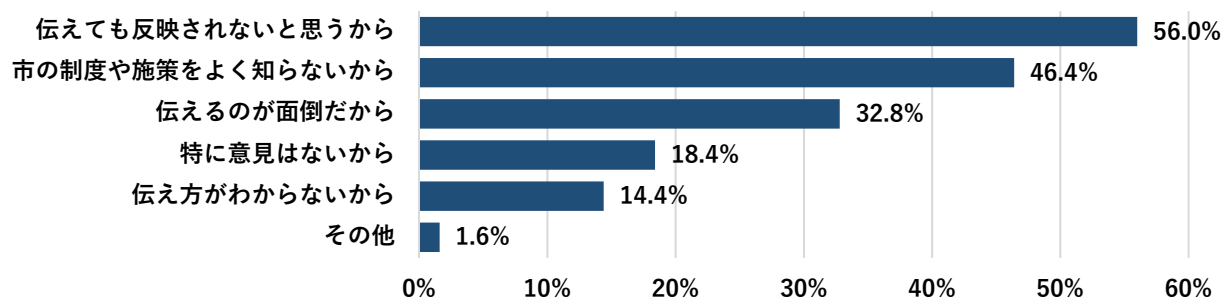
意見を伝えたいと思う

20.7%

- 年代が上がるほど「伝えたい」と回答した割合が増加し、「伝えたいと思わない」と回答した割合は減少している。
- 「わからない」の回答割合が最も高く、自分の考えを表明することに理解が深まっていないことがうかがえる。



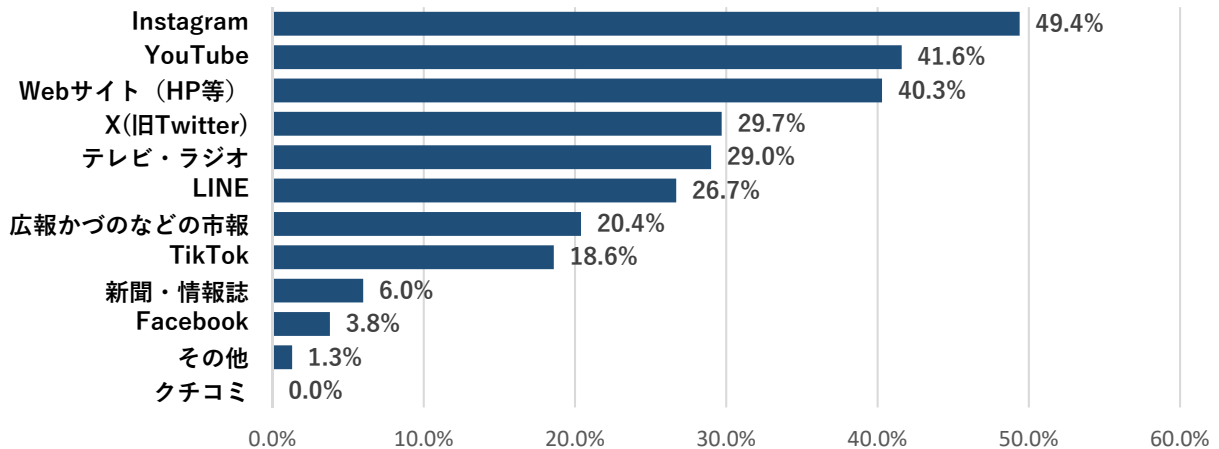
その理由



- 意見が反映された事例の共有など、フィードバックの提供が必要。
- 市の取組に対して関心や理解を深める機会の創出や、「意見を伝えることの意義」について理解を深める取組が必要。

日常的に使う情報ツール

半数が「Instagram」を使用

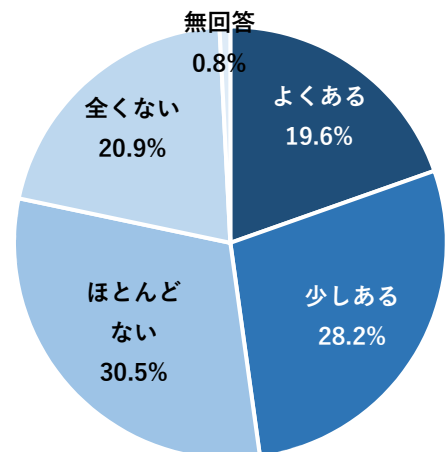


- 情報収集に利用する情報ツールとして、「Instagram」の割合が最も高かった。使用率は「女性」が59.2%と「男性」よりも20ポイント以上高く、また、「10代」では7割を超えている。
- 次いで「YouTube」が41.6%で、「男性」の使用率は48.4%と「女性」よりも12.5ポイント高い。
- 回答した割合が最も低かったのは「Facebook」で3.8%である。「広報かづのなどの市報」は20.4%であったが、一定数の利用が見られる。

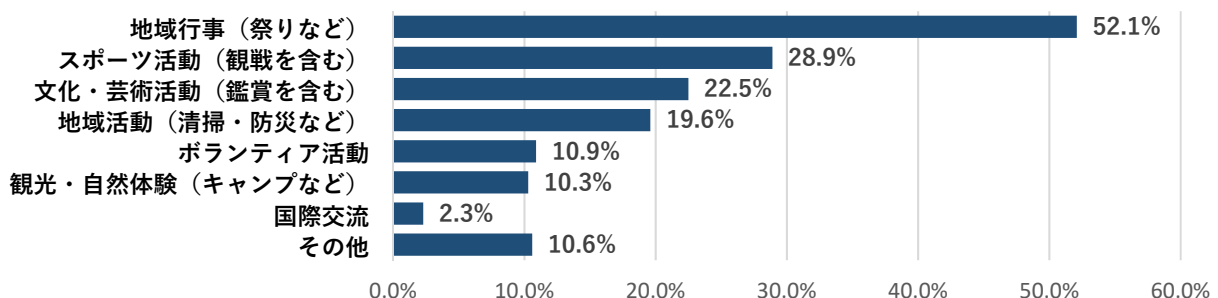
学校や職場以外の人と交流がある

47.8%

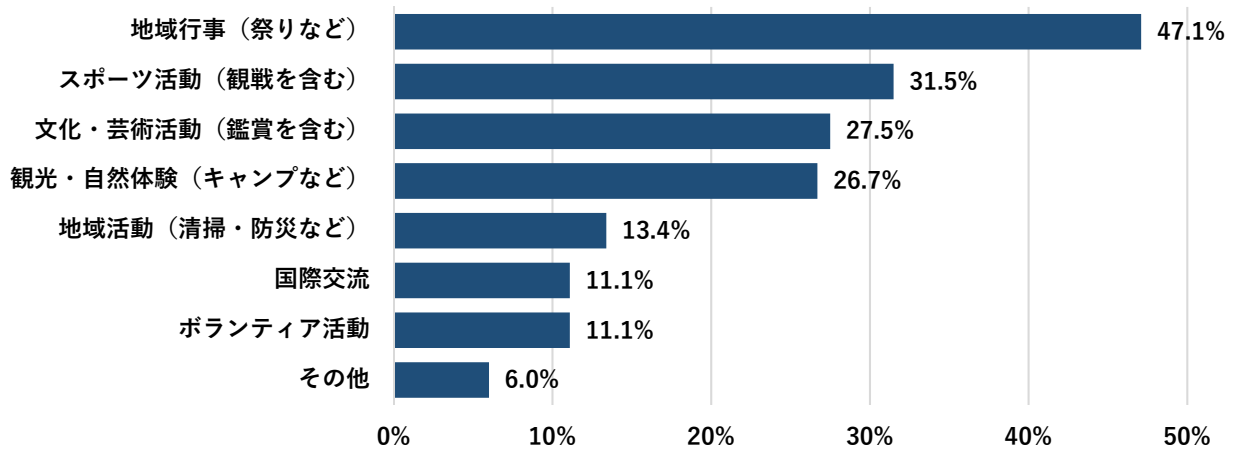
- 学校や職場以外の人と交流する機会があるかについて、「よくある」が19.6%、「少しある」が28.2%で、肯定率は47.8%であった。
- 年齢別では、「10代」が55.0%で最も高い。一方で「20代」は42.2%と、他の年代と比較して低くなっている。



どのような交流をしたか

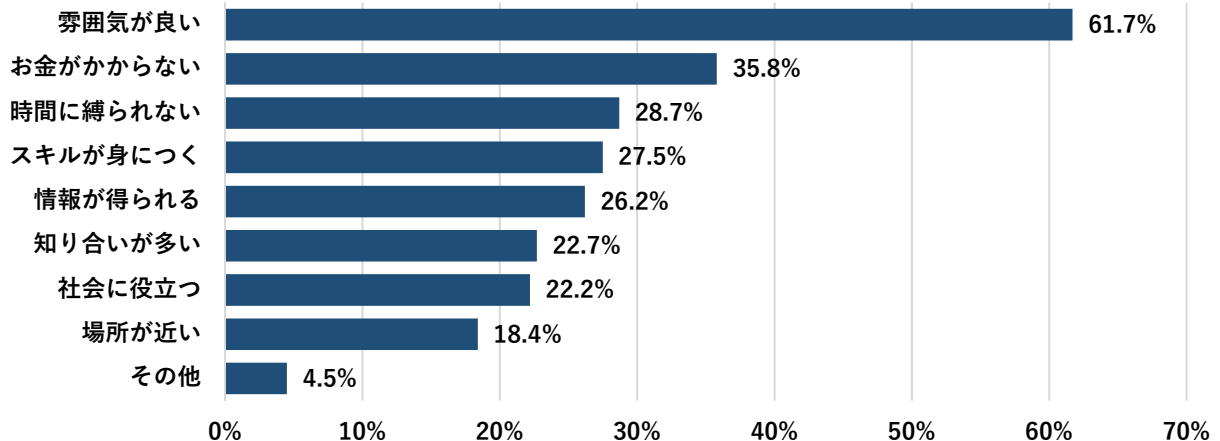


学校や職場以外の人とどういった交流がしたいか



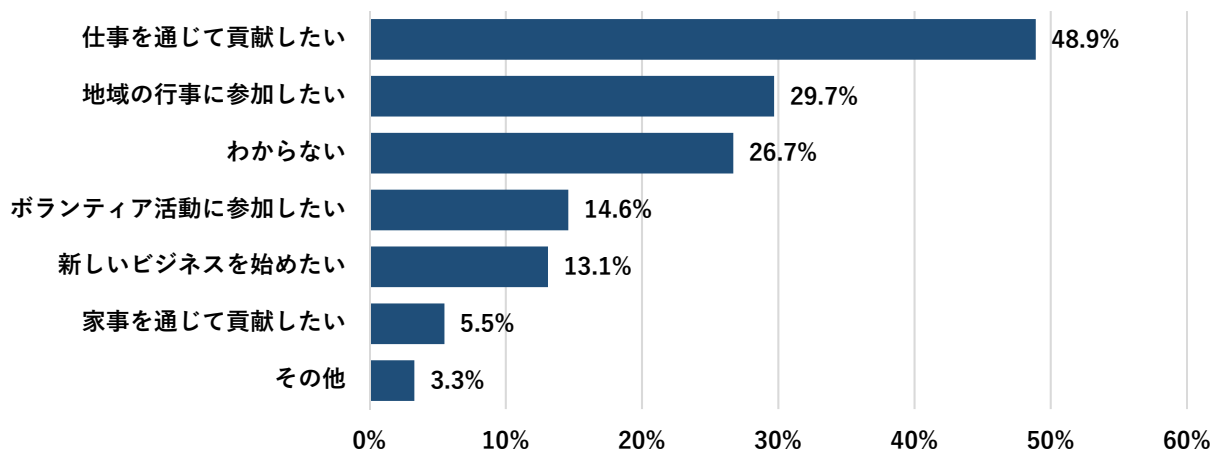
- 学校や職場以外の人との交流で希望するものは、「地域行事(祭りなど)」が 47.1%と最も高かった。
- 「20 代」は、他の年代と比較して回答総数が少なく、SNS やオンラインのつながりが主流になっていることで、実際の交流は数居が高くなっている可能性がある。

どういった条件が揃えば学校や職場以外の人と交流したいと思うか



- 学校や職場以外の人との交流条件として、「雰囲気が良い」が 61.7%と最も高く、次いで「お金がかからない」が 35.8%、「時間に縛られない」が 28.7%であった。
- リラックスできる環境や気を遣わずに過ごせる雰囲気があり、負担が少なく気軽に参加できることが重要視されている。
- 「10 代」では、「社会に役立つ」が 40.7%、「スキルが身につく」が 36.3%と他の年代より高い割合になっている。

未来の鹿角市を良くするためにどのような行動をしたいか

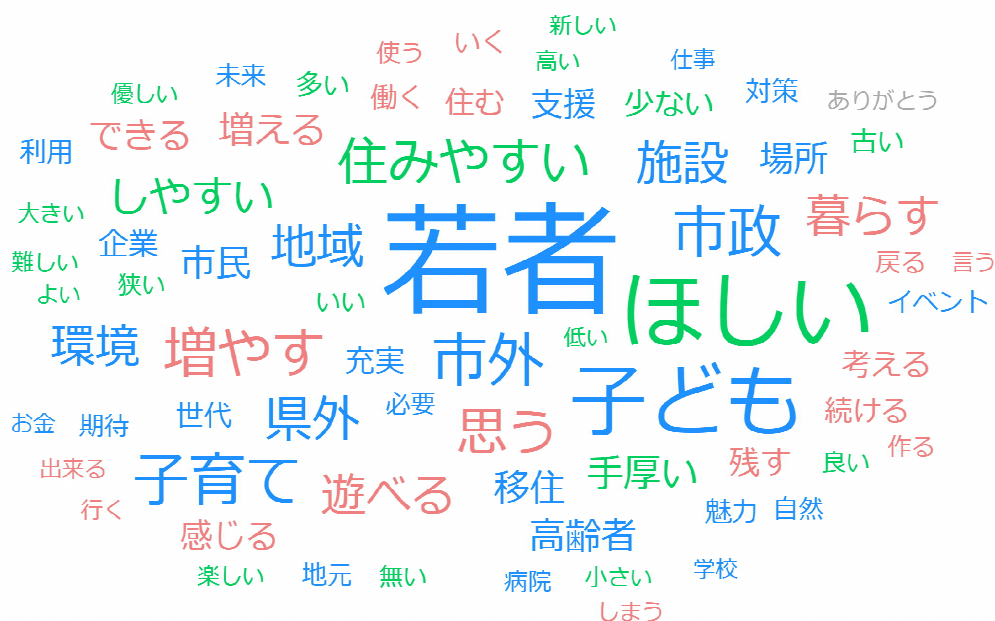


- 未来の鹿角市を良くするための手段で希望するものとして、「仕事を通じて貢献したい」が 48.9%と最も高く、次いで「地域の行事に参加したい」が 29.7%、「わからない」が 26.7%である。
- 「わからない」と回答した理由としては、学校や仕事の忙しさなどから、地域に関わる余裕や機会がないなど、情報不足や関心の低さが影響していると思われる。

4. 自由記載（市に求めることや期待すること）

市に求めることや期待することについて、203 人から 326 件の記載があった。

AIテキストマイニングにより可視化し、スコア順に分析した結果、最も高いスコアとなったのが「若者」で、次いで「子ども」、「子育て」の順となった。これらにつながる言葉として、遊ぶ場所や集まれる場所、若者が残りたいと思える環境づくりに関する言葉が多かった。



令和 6 年度
若者アンケート実施結果報告書
<概要版>

令和 7 年 3 月
鹿角市総務部政策企画課総合戦略室
電話：0186-30-0201
FAX：0186-30-1122
E-mail：kikaku@city.kazuno.lg.jp